長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１０６

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年７月１０日(月)

スタンドバイミーの一場面のようでした！
５年生集団宿泊教室

先週、水曜木曜に5年生と集団宿泊教室に行きました。天候が心配される季節だけに、予定を変更することも視野に入れた今回の行事でしたが、2日間予定通りの活動ができ、最高の2日間となりました。特に、2日目は梅雨真っ最中にも拘らずその日だけ晴天となり、マリン活動も予定通り実施することができました。あしきた青少年の家の職員の皆さんも「多分、この日しかチャンスはありませんでしたよ。運が良いですね。」と仰っていました。「何と運の良い5年生だ！」と感心したところです。

初日は水俣市で環境や人権に関する学習を、時間をかけてしっかりと行いました。子供達は学習したことを自分のものとしながら、改めて「正しく知ること」の大切さや、「誠実に生きること」の尊さを感じて、これまでの経験と重ねて考えていたようでした。

初日の夜はナイトゲームをしたのですが、ここでも雨が上がり晴れ間が覗いていましたので、予定通り実施され、あしきたの山の中で子供達の歓声が響き渡りました。

2日目は先ほどお話しした通り、マリン活動でした。ペーロン船を自分達の力だけで動かし、気持ちを一つにすることの大切さや、目標に向かって努力することの大切さを学んだようでした。ペーロン船体験の後は砂浜の海岸で磯遊びを体験し、仲間同士水浸しになって遊びました。ここでの子供達を見ていると、映画「スタンドバイミー」の一場面を見ているような気持になり、仲間との掛け替えのない時間を大切にして欲しいなと感じたところです。

午後はクラフト活動。プラホビー（キーホルダー）を作りました。準備してきたデザインをプラバンに書き写し、出来上がったキーホルダーを自慢げに掲げる姿を見て、心が温かくなりました。

2日間を通して子供達は多くのことを学んでいます。主体性、協働性、友情、マナー、規律、集団生活…。挙げればきりがありませんが、青少年の家での学びは今後の精神的な成長に伴って必ず役に立つものばかりです。小学校での生活の中で学びを活かしながら、自分磨きをして欲しいと願っています。

負けず嫌いって!?

先日、ぼんやりと考えたことがある。「負けず嫌い」についてだ。よく「私は負けず嫌いですから。」と話している人を見かけるが、これは試合等における対戦相手に対して使っている人が多いようだ。だがそういった人たちは負けず嫌いといいながら、そこまでの成果は上げられていないような気がする。私もその一人だ。これで本当の負けず嫌いと言えるのか？

で、考えたのがこうだ。本当の負けず嫌いは何に負けたくないのか？　その答えを考えていくと、結局のところ、自分自身に対する「負けず嫌い」にたどり着いた。対戦相手に勝っただけではその後の成長が望めない。自分自身に課した目標に勝てるかどうかは自分にしか決められない。自分に課した目標が高ければ結果とのギャップも現れるだろう。それに妥協していては本当の負けず嫌いとは言えないような気がする。そして最終的には、初心に帰り、自分自身と真剣に向き合うことのできる人が負けず嫌いだと思う。

シリーズ「自分を語る」#１０６

平成21年度、心配された担任業務でしたが、学級は急激に落ち着きを取り戻し、それが多くの結果を出していくことに繋がっていきました。前年度からいらっしゃった職員も、急激な行動変容に「澤田さん、何やったの？」と、狐につまれたような感じで私に尋ねました。私はわざと涼しい顔して「別に何もしていませんよ、いつも通りです。」と答えました。私が当時やっていたことは、「凡事徹底」と「居場所作り」だけです。ほんとに何か特別なことをやったということではありません。そして、1年間を楽しく充実したものにしていくために、ルール遵守の徹底と、担任として子供達に接するということはベースに「厳しさ」があるということを伝えました。少々厳しい言葉で伝えましたので、子供達は単に私を怖がって従っていたのかもしれません。しかし、卒業時の文集を読むと、全員が「楽しかった、この学級で良かった。」と綴っていましたので、パフォーマンスは正しかったのだと自分を振り返っています。

5月には運動会が実施されました。まずは運動会を短期スパンの目標として、「何をいつまでにどうする」ということを考えさせました。子供達は当然のことながら、先輩達のパフォーマンスを超えていきたいと思いますよね。私が担任していた学級では、運動会の「組体操」において、「ピラミッド」と「5段塔」を取り入れていました。危険を伴いますので、今はできませんね。当時の学級では、ピラミッドと塔を完成させるためには、どのような言動が必要かを考えさせました。子供達からは「トレーニング」「ランニング」等の行動と、「みんなで頑張ろう！」とか「ドンマイ！」「OK！」等の言葉の目標も挙げられました。良い感じに流れてきましたよ、学級が。これらの言動目標は、夏に実施予定の「キャンプ」と「ナイトハイク」に繋がっていきました。

言動の変化は、子供達の行動と心の変容をもたらし、普段の生活態度も一変しました。大切な1年を、掛け替えのないものにするために、大事に慈しんで過ごさせて頂いたと思っています。子供達の自治が成り立つということは、学級が居場所としての機能を発揮するための最低条件です。長洲小学校は校内の研究の一つの視点として、「学級力向上」に取り組んでいますが、私が当時の伊倉小学校でやっていたことと同じことのような気がしています。

話が反れました。運動会の当日、子供達は見事な「ピラミッド」と「5段塔」を完成させました。5段塔が完成した時、拍手と同時に、保護者のすすり泣く声も聞こえていました。一生懸命は感動を呼ぶのですね。（どこかで聞いた言葉…）

新年度が始まって2ケ月足らずで、子供達は結果を出しました。当時の先生方は呆気にとられていましたが、ランニングやトレーニング、奉仕活動に黙々と取り組む子供達の姿に、徐々にサポートをしてくれるようになりました。私は6年生が落ち着きましたので、他学年にも目を向けることができるようになり、問題未然防止型の生徒指導もできる余裕が出てきました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）